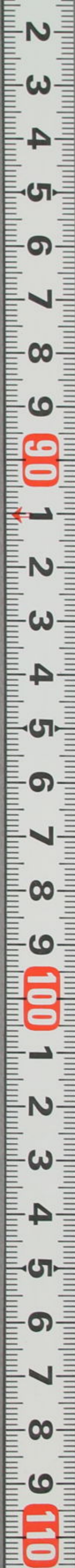




太田道灌雄飛錄

壹

~13
3915
1



門 八 13
號 3915
卷 1

石田道灌 雄飛錄

全部六冊
久保聖梓

題
上

才今之時正史少於野史、少於釋史、
、之影、以爲消、其國、可、
昇、平、性、以、爲、消、其、國、可、
、曹、考、也、其、性、以、爲、消、其、國、可、
、今、之、時、正、史、少、於、野、史、少、於、釋、史、
、古、之、時、正、史、少、於、野、史、少、於、釋、史、
、善、於、此、也、其、性、以、爲、消、其、國、可、



石田道灌雄飛錄卷之

大正八年八月廿九日
本大學出版部贈

世不の不辨也嘗觀々餘悲此々而
返々遠櫻山人書



大田道灌雄飛録惣目次

卷之一

- 一 武家治乱の事
おけちりえ
- 一 足利持氏滅亡並結城義兵の事
あしあきもちうぢめつちやうきぎへい
- 一 附 成氏関東の管領とゆるり
なりしげちやうけんとうけんれい
- 一 管領上杉家の事并内管領大田長尾の事
かえんれいさすぎりやうけかえんれいおちのちやうと
- 一 大田鶴子代丸誕生の事并生立人勝れ
おちくつるちやうまるえいどまるおひまるとかた

卷之二

- 一 成氏管領上杉憲忠と不快の事
しげちやうのりうぢふしやう
- 一 成氏憲忠を殺せり并上杉入道朝倉倉へ寄る事
しげちやうけんちゆうをころしやうさぎやうにちやうどうあさくらくらへよ
- 附 大田道真退口武勇の事
つりおちやうぢまへいごうぶゆう

一 成氏上杉とあり軍并成氏と上杉より京都へ進軍の事

附り 武州府中分陪本軍の事

一 常州小栗落城成氏下野國宇都宮の城を攻むる事

一 系部より成氏征討として今川範忠陸倉へ奔向の事

并成氏陸倉を退去軍兵本乱妨の事

卷之三

一 千葉落城流直父子生害の事并千葉二流とある事

一 大田持資家督相續扇谷谷を補佐する事

一 大田持資武州豊嶋郡小栗城を築く事并五山の學者持資を頼む事

附り 河越の城を根拠する事

一 東の常縁京都の命によりて下総國へ下る事并馬加落城の事

附り 東國の將士を蜂起の事

一 足利政知東國の主として下向の事

卷之四

一 天正二の年日及び翌年附り上杉顯房父子にて卒ある事

一 大田道灌上洛の事附り美政公へ謁見を勅答詠哥の事

一 成氏長尾昌賢と武州今井軍の事

附り 結城成朝武勇の事

一 成氏長尾昌賢と武州六郷より再び軍の事

附り 小机彈正左衛門の事

一 古河方政知と伊豆國三島より合戦の事

附り 古河方敗軍の事

- 一 長尾昌賢古河の城と為臣附り成氏千葉へ退去の事
- 一 長尾景春逆心附り右田道灌異見の事
- 一 道灌あ上杉は景春殊死を勸む附り景春謀叛の事

卷之五

- 一 景春同意の者降起附り道灌あとの城を攻めしむ
- 一 豊嶋重員以所方へ属す附り道灌武州浅茅ヶ原軍の事
- 一 道灌武州江古田軍附り敵兵敗軍の事
- 一 景春上杉勢と武州用土原軍附り道灌謀景春を破る事
- 一 長尾系去れ所方へ降参の事
- 一 あ上杉景春北武彦對陣附り成氏上杉と和平の事
- 一 道灌武州小机軍附り景春敗軍の事

- 一 道灌相州奥三保軍附り海老名本間討死の事
- 一 道灌東武巡見并小日向金剛寺市谷八幡宮の事
- 附り山吹の里の事

卷之六

- 一 大森伊豆守上杉定正を叛く附り相州平塚軍の事
- 一 成氏あ上杉と和平の事附り成氏古河へ帰城の事
- 一 原胤繁定正を背く并あ上杉不和の事
- 附り道灌鴻の臺出張胤繁討死雁南為味の事
- 一 両子葉下総を争ふ并道灌再び鶴の臺出張孝胤敗軍の事
- 一 道灌下総臼井の城を攻め并太田圓助討死臼井落珠の事
- 一 定正が近臣道灌を諷む并道灌扇が谷へ出仕の事

一 上杉政定あさかぎまささだの奸計けんけいに依よて太田道灌相州糟屋さうやを討死うちころす

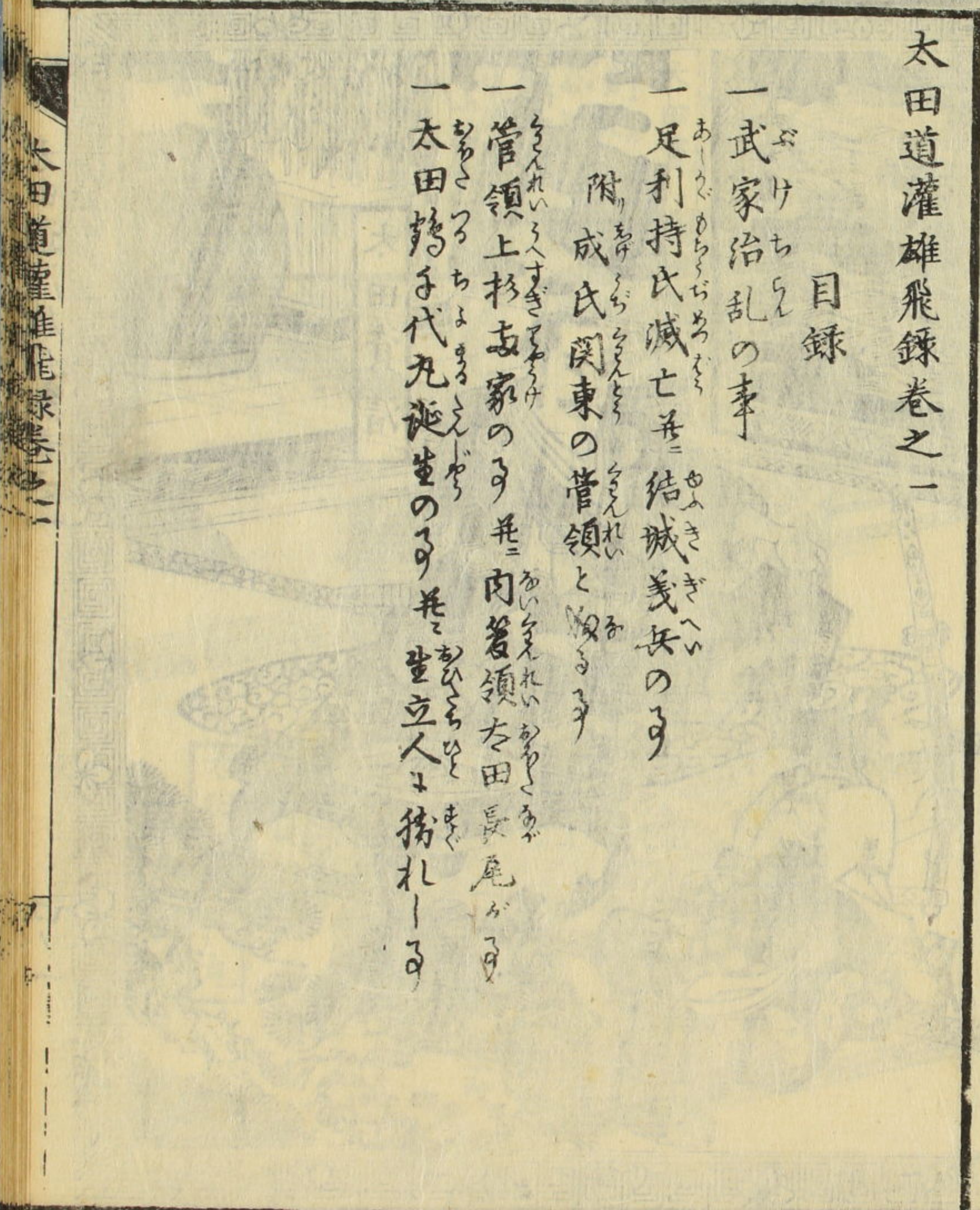
惣目録終

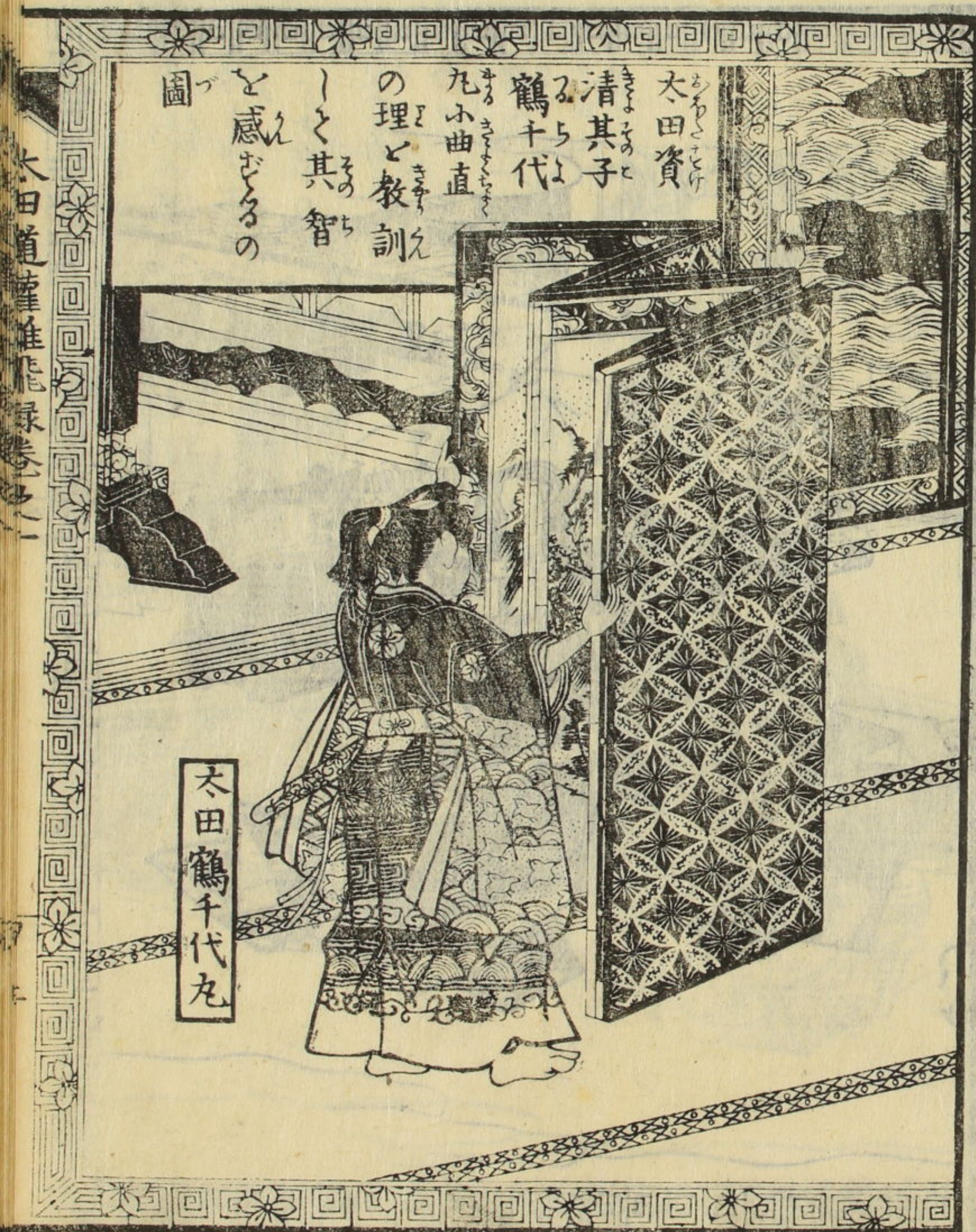
[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

太田道灌雄飛録卷之一

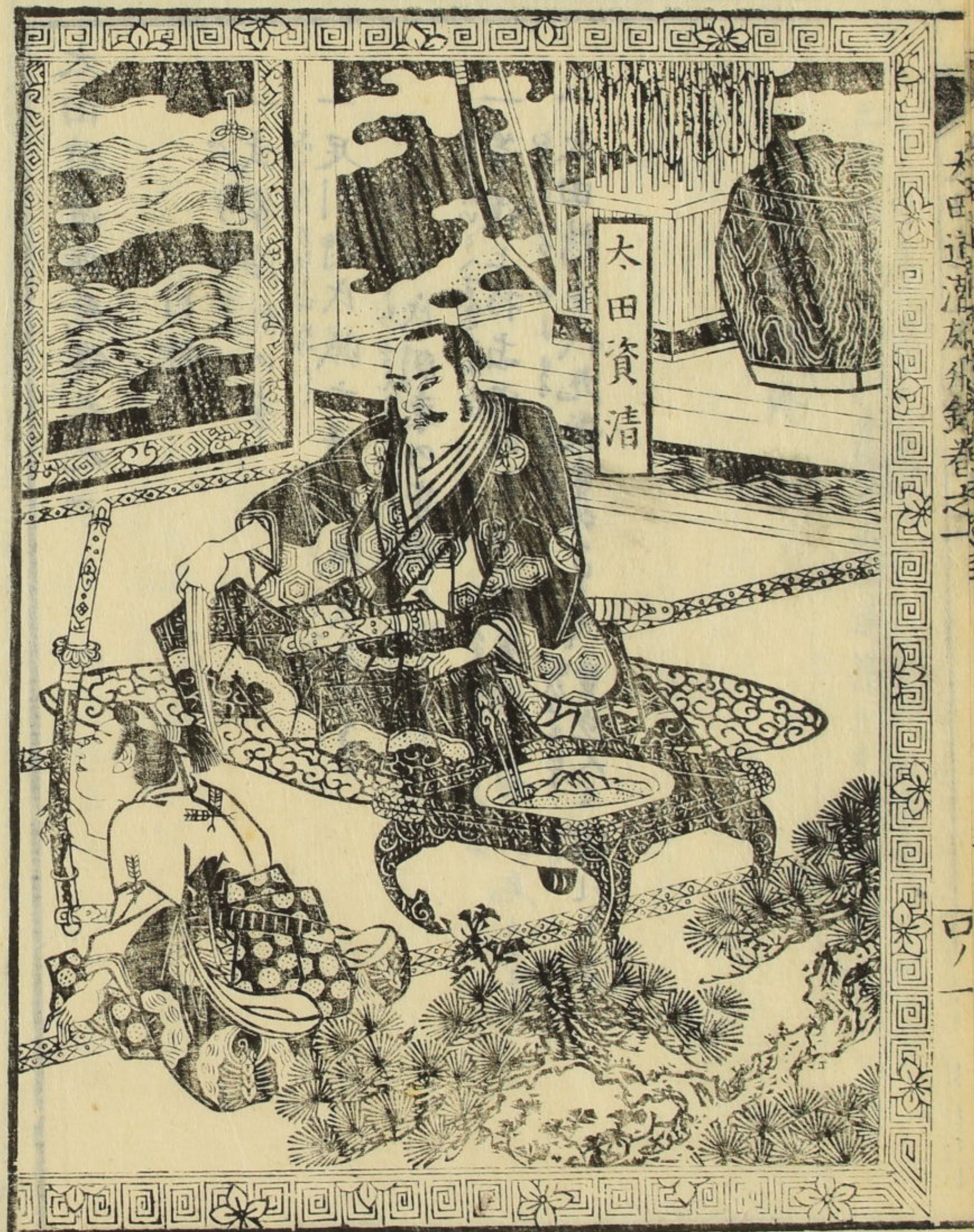
目録

- 一 武家治乱ぶけぢらんの事
- 一 足利持氏あしかがもちうぢ滅亡めつじやう并な結城義兵むすきぎへいの事
附 成氏なりうぢ関東くわんとの管領くわんりやうとなる事
- 一 管領上杉玄家すげのげんけの事并な内管領右田長尾うちくわんりやうみぎのたながおが事
- 一 太田鶴子おのたつこ代丸しろたま誕生たうじんの事并な重立人むねたてびとになつれる事





太田道灌准后録卷之十一

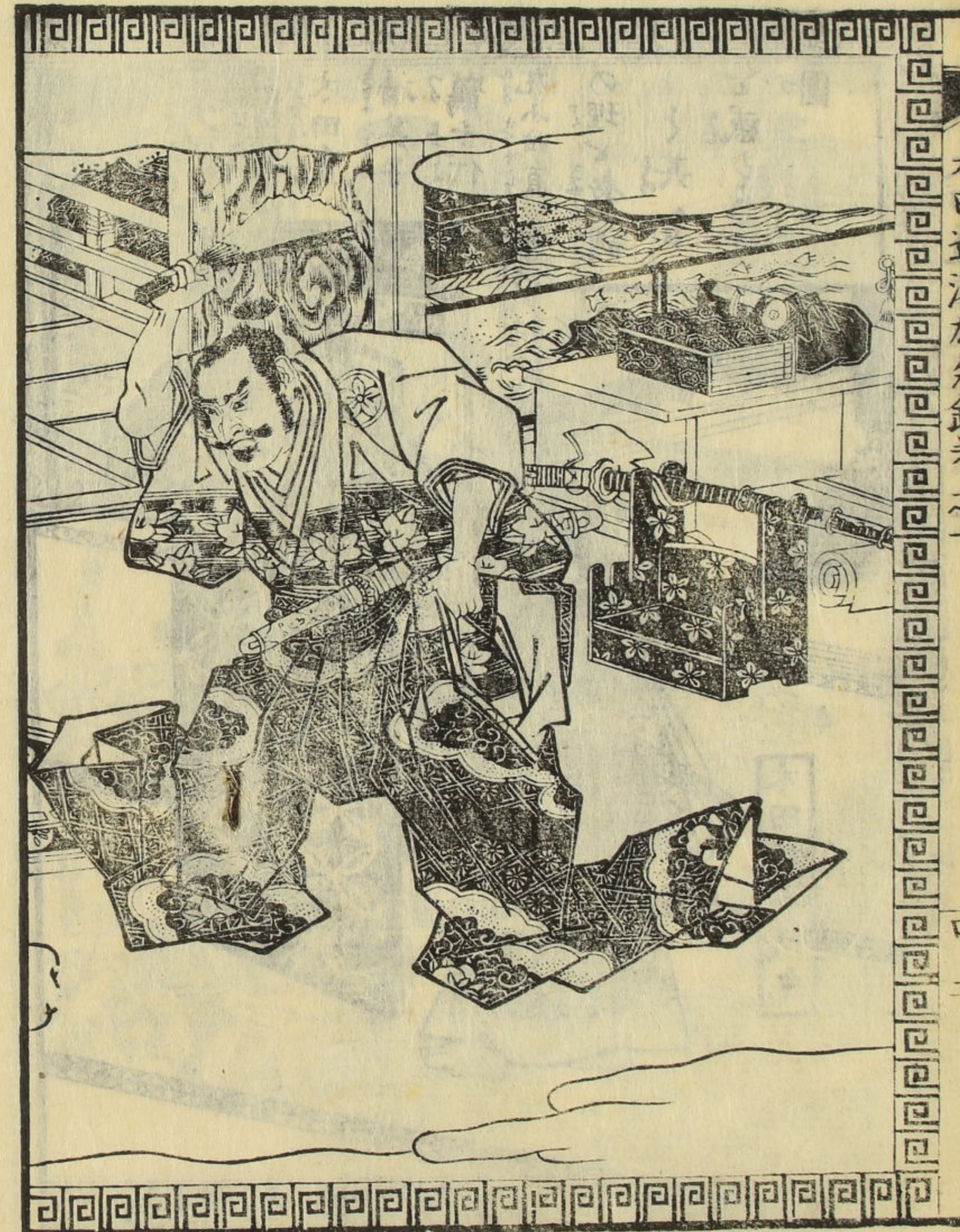


太田道灌准后録卷之十一

一〇



大日蓮聖人傳記卷之十一



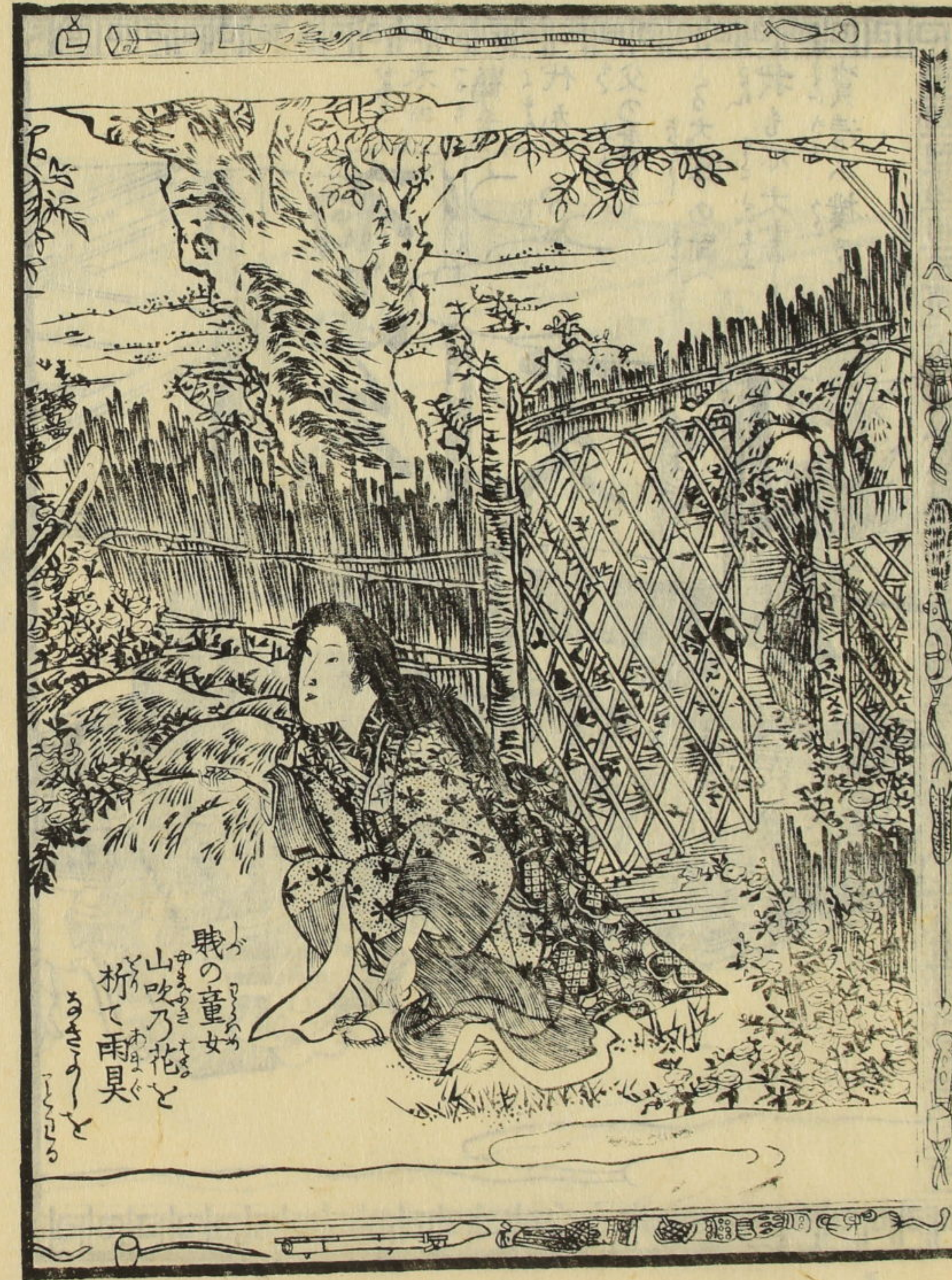
大日蓮聖人傳記卷之十一

四ノ二



持資高田小獵
 急雨あひ
 農家小とめて
 雨具と借る圖

大日蓮宗金巻卷六十一



賤の童女
 山中乃花と
 折て雨具

大日蓮宗金巻卷六十一

百三

谷鷲 源持資今道灌

君のまじりてはしむるは世にあら
いとまじりてはしむるは世にあら

大田道灌雄飛録卷之一

東都 木村梅年忠貞編輯

武家治乱の事

夫天地の間陰陽の儀と最大ありて是上ありては則日月あり下あり
 とは則水火あり其天地の間は物人と氣靈長くと是も君臣あり
 君の陽ありて尊く臣の陰ありて卑く陽を以て春の陰を以て秋と
 四序行の是も生育成る君も陽の徳を失ふと下陰の氣盛んゆて乱臣
 賊子多く世より掠奪と専らと忠義の人潜く隱る諂諛の者押し進
 國空窮し民疲乏能く泰平の化致さず難く熟旧犯と考ふるも往昔
 七十七代の天子後白河院獻惠の卦不任を怨む旧制と草りもあひ天
 児屋命に齋めもあひるる平清盛も大臣に授けて政務を委ね

威權を擅めし其女をりて當今高倉院乃中宮不備八百官百
 人皆眉を顰え顔色あつむるふまゝ。勅法皇と鳥羽の離宮か
 らめし其暴無譬つるふまゝのあ。女時めありて源氏の義朝の
 叔達より絶るか。諸國の因姓多しと。或ハ戎吞あるも
 兵乏し。うちある事。つら。或ハ平家の勢み恐きて空く憤然
 せえて。在拜し。過ふもの少く。女故攝津守頼光五代の孫
 源三位頼政入道澤く源氏の衰微と歎き。家少し法皇の五子高倉の
 宮以仁親王を勅りたり。平氏と亡し。世承平ふたると。國の源
 氏ふ牒し。合せ。義兵と擡んとせ。事多し。發覺して宮内

始りたり。其身も若小一族郎等す。悉く守保あて亡びし。と。
 清盛廿次子國の源氏等と根と断し。葉を枯さんと。其後後あり。
 ことと圖て頼朝ハ伊豆より起り。義仲ハ木曾より出と。竟小平家
 族滅し。源氏一統も。その上法皇より頼朝ハ惣追捕使の勅許をう
 下さる。是より王道衰えて。再世古小復る。公家武家と二つ
 ころと。権威も。武家より移り。其後八十二代後鳥羽院の
 事と憤りたり。宇内成り。朝廷の有。給らんと。取
 と廻ら。鎌倉代亡さんと。法計策なり。きれども事就ら。却
 順徳院後鳥羽院土御門院の二帝代。遠き國へ遷幸。う。あ
 たり。武威も。公行。鎌倉も頼朝父子三世。後小二十四年
 あり。断絶し。將軍ハ攝家方の公達へ。頼朝父子三世。二

幸ゆくと事止ると天子へ奏聞成とけ。親王方と申すはひく。此は
將軍と仰ぎたまるといども。天下の政勢は北條の方より出て九代
が同百十四年日本を掌握も九代相模入道宗隆が執権のまゝに上
九十二代後醍醐天皇の昔と思召るるを俗のも。復古の術企あり
きるがまゝ事浅とて。まよひの隠岐國へうつさる終ひしども。此時
天地革命の期ありたりとて。皇子大塔の宮と始藤原藤房新田義貞
足利高氏楠正成赤松圓心名和長年等の人々。朝廷へ忠義をばさ
しるる。跋扈す。北條と唯二十四日が同ふうち滅。宸襟をかきりて
聖運と用さ終ひしども。まよひの隠岐國へうつさる終ひしども。此時
奏と納き女謁ゆれと賞罰明ららるる。功臣恨みは含
と大將又威と事ひ足利高氏叛逆しと。武士多く渠より属し官軍あり

義貞正成等の智勇乃將帥ありと。まよひの隠岐國へうつさる終ひしども。此時
天下又高氏小倉とて武家又飯も。まよひの隠岐國へうつさる終ひしども。此時
得る天下なれば。一統の後も動乱終るまよひの隠岐國へうつさる終ひしども。此時
あまの。教及戦ひまよひの隠岐國へうつさる終ひしども。此時
又高氏の子義隆も柔弱ありて。山名時氏仁木義長細川清氏等敵と
あり。まよひの隠岐國へうつさる終ひしども。此時
臣細川頼之とて是を補佐し。室内を統御せしども。義満の潛上りて
のへえりあり。六世義教の赤松満祐がまよひの隠岐國へうつさる終ひしども。此時
世の中も群るるまよひの隠岐國へうつさる終ひしども。此時
うち任せらるるまよひの隠岐國へうつさる終ひしども。此時

武士將軍の命を用ひて。おのごはるぐ此の事ゆゑと。應仁元年丁亥
より。文明九年丁酉まぐ十一年間合戦止むと。さび國の
名。細川方と相持ち。これより世々大亂となりて。ゆく戦國とて
たり。備又関東より。氏上洛の後。共二男基氏せりて。東國の管領
と。源金より。官乃餘類。新田の氏族と。退治せり。降るもの
殺して。所領を。從るるに。付て。共相争つ。さよより。そよ
源金。源金。基氏二十八歳。めく貞治六年に。月二十六日。卒。其子氏
満。子満兼。子満持。相持。源金。源金。東に。居む。統る。系。於
ち。氏持。將軍の。時。應永二十二年丙申。源金。持氏の。執権。と。秋氏。憲。入。道
禪秀。持氏の。別腹。の。見。持。仲。と。ま。めて。礼。と。發。持。氏。と。退。ひ。ゆ。て。一旦。ち
利。と。得。る。と。い。ども。さ。於。り。加。勢。ま。り。禪。秀。敗。北。一。類。と。あ。く。滅。亡

ま。より。持。氏。再。源。金。不。飯。子。て。元。の。ぐ。東。國。の。成。敗。と。司。と。り。り。
○持。氏。没。落。并。小。治。政。義。兵。の。事。附。成。氏。東。國。の。御。所。と。あり
ま。り。の。事。

扱。も。足。利。左。兵。衛。督。持。氏。の。禪。秀。滅。亡。の。後。の。事。成。氏。の。御。所。と。あり。て。八。州。乃
名家。の。り。の。み。か。ん。の。武。藏。の。七。黨。坂。東。の。八。平。氏。紀。清。の。者。す。も。
其。指。揮。を。從。ひ。て。任。重。く。職。尊。き。ふ。あ。り。も。心。不。飽。ま。り。ま。や。あ。り。ん。の。い。も
し。く。系。の。の。軍。を。分。た。し。東。西。を。併。せ。て。我。一。人。の。軍。と。成。ら。ん。と。い
ふ。事。を。い。ふ。心。中。不。秘。し。て。あ。り。も。人。あ。り。も。顯。し。あ。り。も。さ。り。の。御。所。と。あり
あ。り。の。系。抑。け。温。筋。を。ま。り。の。の。軍。を。量。に。さ。り。十九。年。あ。り。て。應
永。三。十。二。年。乙。巳。二。月。二十。七。日。薨。た。り。あ。り。も。あ。り。の。事。法。爾。の。事
は。定。め。て。持。氏。に。宣。下。あ。り。ん。と。御。所。に。付。て。相。違。し。と。故

海峽滅さんと志す人彼とらひ此とらひは身の前言となりゆれしは是
 非なるれかざるをさし捨てべしふりては是るべき事なり本年八月十六日
 一色宮内少輔忠業同刑部少輔時家と大に搦平の大將とて白井ありて
 三つ向らしは持氏も翌十六日武州多摩郡府中へ出でし。安守小陣
 とありては其の勢が分ちあはらる。先づ法政寺島氏朝十葉女流同修徳大史
 流將同陸奥守康胤佐行と入道本覺同刑部少輔義俊小山下野と朝
 蓮池安藝守川紙治於少輔瓜下二千餘騎ありて是陣。白井の城をかみ
 攻む。いづれ長尾因幡守景宗が方なり。始終と多勢人言と。瓜下の久
 鬼も角もさうらふる。早馬とて上せり。とてさうらふ。諸方より乃
 徑進ありし。憲実ささくひ神妙あり。ささくは序よ持氏を亡むべしとて
 義教とあも兼く赤團系級の由り小入と内へおちりてさるしとて

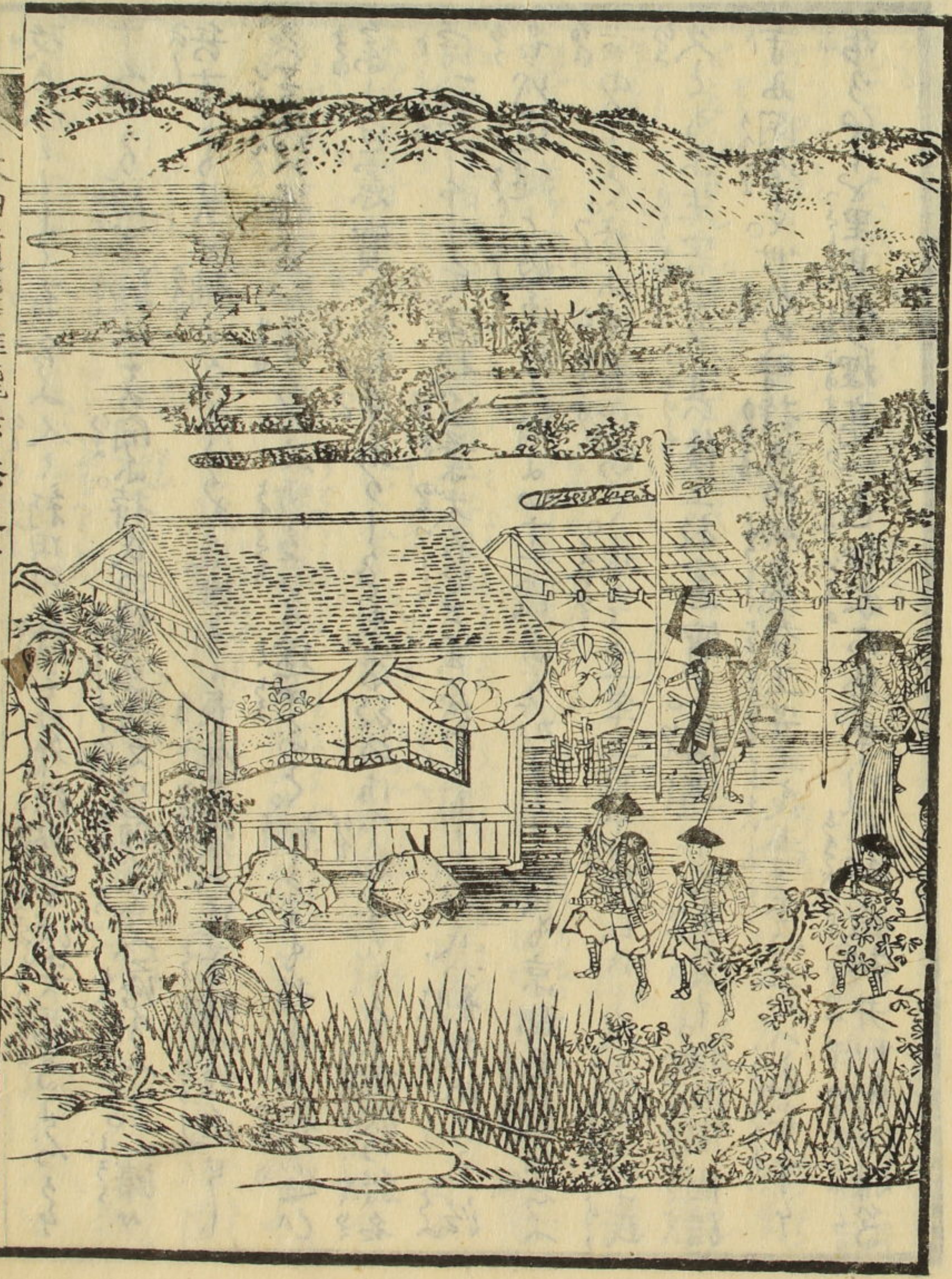
あまびと急ぎけり。向ひらぶしとて。諸人將へ令せし。中あも故陣あり
 子息とて中務を捕持房。其が治於を捕教朝と大將とて。天下のれと鎮
 すと。天子より金銀ありて日月とあはる。錦の御旗とて將軍家よりい
 は波乃旗とぞし。いふ人其父乃入道が保親とて。上より。將
 軍家よりいふゆゑ。義教もその真心と稱し。今交の付りあひ令せ
 らしむ。其外相持へん。今川上鑑女範忠。朝倉小を教系。小と系
 信濃守政康。氏田大膳と。信重。法永。治於少輔。明山。名中務を捕。源貴。大
 河系。長門守。川崎肥前守。萩路美保。曾我平。二。信門尉。等。於。令。二。万。餘。騎。
 同。年。十。月。二。日。系。於。瓜。下。と。り。又。鎌。倉。勢。は。白。井。の。城。と。一。操。平。
 攻。之。三。人。と。一。扇。め。ども。城。を。堅。く。守。り。と。出。合。の。ど。い。さ。く。小。月。日。候。ひ。さ。く。處
 小。系。於。瓜。下。軍。平。向。と。り。入。河。治。は。ゆ。と。と。り。結。成。佐。行。千。葉。と

たのむ。八平氏士堂の面をも。京がよちと曳く悪うりあんとかさひまん
どのがさぬぐよはうく行く謀者の言を侍で城戸を用いて討て出進い
散らさへ。一色雲霧一戦少もかゝる。右佐佐木は散れど。武刀高安
奇を以て迹屏する持氏大さかきる。奇を以て引く。相州海老名へ引退さ
ず。陣と多くを保軍勢を招きさるれども。八州の佐大将一時は都さ
上枝方へ加りなれば。こまつと山下とも小。息とほぐさるるり
ある小女び鎌倉の首さる。然人評後の人。三浦介時多小は世
ほをらさし小。けの時が倫又さるる。禪秀丸の長も。吾二乃忠
戦と勵む。持氏とささる。鎌倉小還經りて。忠はありしが子を
くと。甥の時多ととらと養子とさる。然と讓りて。小時多。兄弟乃
る明り。配分の所領を。びよさる。自らの領地を讓らさし。新坂中し

さるも多。始り相違あるさる。昔ありしが。近臣等か。後言ふさるる
義高が遺領二箇。さるさる。忍習き公の面々恩賞さる。されば
時多が恨み。肯龍小徹と。室初より。留り乃。半解退りて。ども。信再
三小女び。一は是非さる。鎌倉と繋固りて。り。九月上旬。京都乃
由教書。小倫首。公。持氏と進付さる。八州の佐將。お輔らさし
あり。ささる。心と變りて。ささる。さる。与力する者多る。さる。け。た。三浦外
か。さる。我久々。持氏の幕下。小あり。忠。何さども。不笑あり。然り
後人後者のさる。所願悉。成り。さる。さる。度々。面目。成。失。事。その
遺恨。さる。さる。さる。め。れ。折。れ。め。及。迷。と。止。て。ん。と。ん。中。小。さ。ひ。み。さ。れ。ど
一己。乃。力。小。も。及。び。が。さる。さる。さる。さる。如。ふ。け。さ。い。鎌。倉。の。首。さる。め。れ
西。も。さ。ら。い。が。さる。さる。一。と。用。さる。さる。京。都。より。は。教。書。到。来。す。ら。ん。

朝敵と争きたり。苗も乃復とち捨已が所領相及三浦へ引き
入る。苗も宿道乃依。早々一或海老名の陣へ告げたり。持氏と
ちの相與とす。これども。修より。進む。与力の者馳加るべ
誰とれ付も小遣いも。評定區よりして一。日休る。如小三浦
の時。さ。び。二階堂を清門射行秀等。遮り。孫念二。か。氏家
教十ヶ所。放火。下。あ。千軒。屋。一。斤。の。と。焼。上。孫念の騒動
い。さ。あ。早馬引も。さ。持氏へ。か。後進も。持氏ら。ふ。り。て。天
一。い。さ。評定。法持。さ。京勢も。一。日。あ。ど。入。川。さ。ん
孫念も。又。持。か。と。さ。三浦。が。萬。攻。め。落。さ。入。あ。後。志。難。後。なり
不。詮。系。初。の。付。と。一。戦。鬼。も。角。も。あ。り。終。と。ぞ。殊。ら。る。能。る。京。勢
大。乃。大。將。と。扱。持。房。が。先。陣。ち。箱。根。下。向。さ。る。あ。大。衆。伊。豆。が。預。查。箱

根乃別當多。難新小支へと防戦。遠江國の住人。搦地。勝間田。豆。只の寺
尾。孔。軍。敗。北。孫念。さ。少。勝。よ。あ。り。と。い。ども。搦。午。の。大。將。今。川。範。忠。以
下。教。乃。人。教。足。柄。山。と。越。え。と。相。及。西。影。入。責。入。さ。持。氏。あ。も。上。扱
憲。直。と。大。將。と。さ。千。餘。騎。回。國。早。川。尻。へ。さ。向。き。と。も。孫。念。さ。小。勢
あ。れ。ば。終。に。敵。軍。と。争。き。千。葉。外。流。直。り。と。孫。言。と。和。睦。と。あ。り。や
さ。も。例。乃。さ。仲。侍。辨。と。依。い。さ。ふ。さ。さ。ふ。さ。と。う。亂。也。心。不。平。と
懐。き。と。深。大。寺。さ。入。引。退。れ。ま。り。市。川。乃。流。と。紙。と。陣。と。さ。る。依。又
上。扱。憲。実。さ。九。月。四。日。よ。上。京。白。舟。が。サ。シ。神。那。川。の。敵。と。退。ひ。さ。り。さ。け
分。配。河。さ。出。張。と。り。て。孫。念。さ。の。者。共。大。半。を。あ。り。て。扱。け。と。さ。る。あ。ら
孫。念。管。領。の。さ。め。で。あ。り。と。さ。の。持。氏。の。陣。新。軍。勢。陣。の。か。減
か。し。り。又。孫。念。へ。三。浦。二。階。堂。さ。び。上。扱。持。朝。が。彼。官。の。者。流。所。



中々多
足利成氏
関東後領
となりし
鎮倉
下向
の國



攻め入りしあり。有合山人新田の一族。その外佐女。金沢安西等。日ごろ
十人をり。防ぎ執りその向ふ持氏の嫡子義久の崩がへる落りし。二浦が
兵士ども是と擣とさうしき。世より長尾尾張入道若傳へ進進
久芳傳へ鎌倉を守らんとす。途申あて。行かすも持氏より遠ひ
まゝ。憲實といわ平ありし。も。宗政の由下知たり。金沢の称名
寺へ移し。上校お兼大石等。こゝに居る。持氏ハ利敵あり。法
名弘道。継と改をり。時ハ四十一歳あり。かゝる。後ハ京都義教ハ
昔の。竟ハ若免。永享十一年二月十日。持氏あり。小嫡子義
久とも生宝あり。其後上校憲實も。隠遁して剃髪。伊豆國清
寺。閑居も。世ハの時持氏の幼息春王安王。永壽王乃三人ハ永安寺
居り。と里見修理亮一色伊予守。今川式部丞。桃井刑部。浦等。

心とす。二人の若君とお伴。山邊より落り。安王と下野國日
光。之。信列。一色等のく。國
と多ゆえ。便直乃大名。弘。少補氏朝二心。快
味。永享十二年庚申。月下旬。と。勢と集る。小。氏朝が備
後。先下野。新田二部。秋。子。田中。多。佐
小。有。國府。美濃守。高階。民。大。協。修理。元。桃井。官。野。田。が
等。是。小。と。及。逆。と。企。結。成。ハ。自。の。城。ハ。楯。籠。る。竹。倉。系。於。人
道。より。向。結。成。城。を。攻。め。と。と。も。博。志。を。重。ん。と。と。防。我
と。と。氏。朝。が。浦。氏。義。敵。ハ。備。と。色。て。回。り。忠。一。城。と

あり。かゝる永壽三下向ふ就き。上牧房定ハ紙後上野孔院へ向ふ。
政事と補佐を。子二男顯定ハ上府中へ向ふ所馳走せしむ。同八月
廿七日少向井と出立。鎌倉へ籠る。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
鎌倉に在り。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
石。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
み。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
召連。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
少。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
あ。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
と。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。

老。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
と。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
同。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
と。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
元。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
城。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
出。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
按。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
瀧。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
と。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。
と。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。

昔、頼朝が山の軍ふらち負け、あまきありて房の道と。此の法乃
浦も入後了と。此國の武士、安西二帝系、金、藤原光泰、丸
み、信俊、東條七帝、秋別等。一番、地あり味方と。志志を勵
う、あまら。本國平治の後、安房國を、廿、は、つ、り、ま、ら、り、代、互、不
能、一、睦、睦、て、平、安、也。此、も、よ、入、を、印、義、実、の、安、西、不、倚、於、一、小、孫、を
食、い、め、り、じ、が、元、來、將、帥、の、才、美、あり、け、頃、ハ、戦、國、の、習、い、あり、四、家、者
領、地、を、わ、り、し、ひ、合、戦、止、む、と、さ、り、義、実、の、も、大、に、あり、て、此、去、次
指揮、し、攻、め、必、あり、戦、い、か、あ、り、勝、つ、安、西、も、無、難、流、し、抽、り
し、が、病、死、と、さ、り、在、門、外、義、実、不、方、ら、ぬ、勇、お、り、又、忠、勤、を
そ、と、く、終、り、も、嫡、子、上、野、女、義、道、家、に、終、て、早、世、と、い、れ、ふ、り
と、身、志、を、帝、義、豊、不、帯、を、讓、り、受、く、た、馬、助、と、号、し、是、ハ、明、應、の

始、たり、義、を、智、謀、務、ま、大、別、の、勇、お、ゆ、義、新、の、戦、い、小、女、勝、ゆ、
明、應、に、事、乙、卯、ふ、る、ま、り、と、終、り、と、い、れ、た、り、安、西、小、房、の、領、さ
り、る、小、女、西、の、義、女、が、氏、威、勢、を、代、志、悪、く、却、と、義、を、滅、さん、と
す、る、義、豊、大、不、傍、り、忽、と、叛、か、り、お、き、の、年、十、月、安、西、が、敵、を、獲、い
即、時、不、付、滅、し、國、中、が、押、入、り、楠、村、の、城、を、か、り、安、房、源、氏、と、稱、し、
一、幡、の、將、と、あり、薩、國、の、孫、食、を、ん、と、と、其、勢、ハ、強、大、なり、さ、し、こ、と
た、か、吉、元、來、り、り、明、應、五、年、と、い、れ、た、り、の、中、の、年、の、後、たり、成、氏、孫、會、
後、法、の、室、繼、元、來、り、れ、バ、其、間、終、り、九、年、あり、て、義、実、の、も、安
西、の、一、子、一、時、あり、ん、と、い、れ、た、り、事、大、小、遠、く、あり、や
又、法、孫、氏、朝、が、初、息、七、帝、重、朝、へ、受、付、死、の、時、の、い、ら、ふ、三、歳、あり、し、と
安、西、に、多、加、賀、谷、三、帝、遠、山、と、い、れ、た、り、常、陸、へ、落、ち、き、佐、竹、家、小、孫、を、居

らりしは河内得く結城へゆり。四信と名づへ。近郷と少徒一隊舎へ来
上あり。まき成氏を説き。則中少補を朝と改めさせ。身死
るはりれきり。尤も成氏の上。叔憲忠と對して。別後あり。とて。當
時出陣乃西へ。のとも。彼が父憲忠。一七。子孫あり。ふらき
て。笑中。又と研ぐんせ。危き事ども多かりき。ま

○上校西家の事。并小内管領太田。長尾家系乃事

岡東の管領上杉家。高氏公乃母堂二位友の舎兄。上校長庫頭憲房
入道道欽。京四條乃軍小。高氏公代。付死す。甥の伊豆重能
と。高氏と惣領と。世人執事高氏。藏守師直と不快少。害す。る
子。守憲房の實子。上校修理亮憲藤。曆應元年。岡東の執事。子
命。り。色。一。が。こ。も。同。年。三。月。十。六。日。信。濃。國。小。郡。討。死。す。憲。藤。一。子

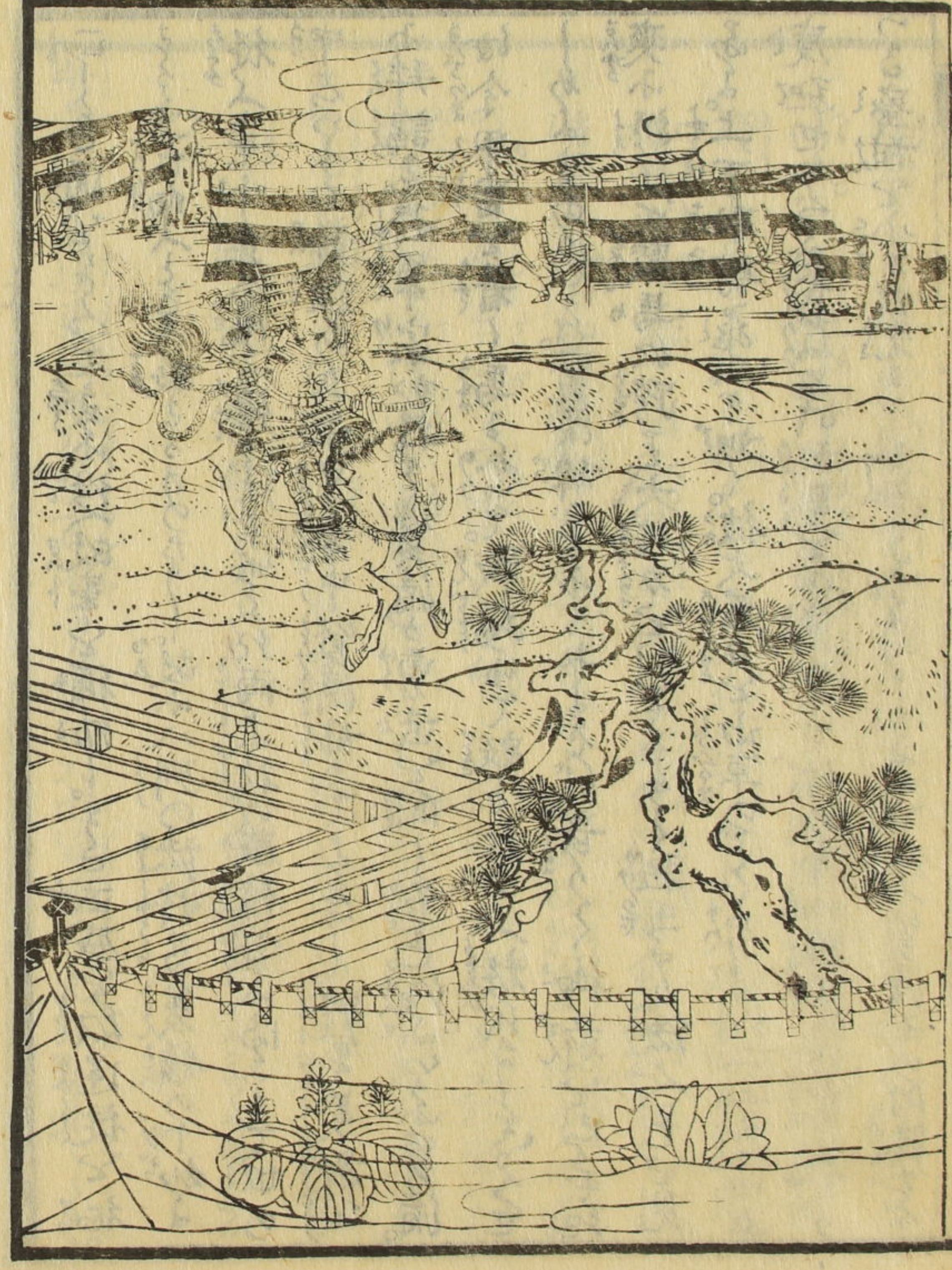
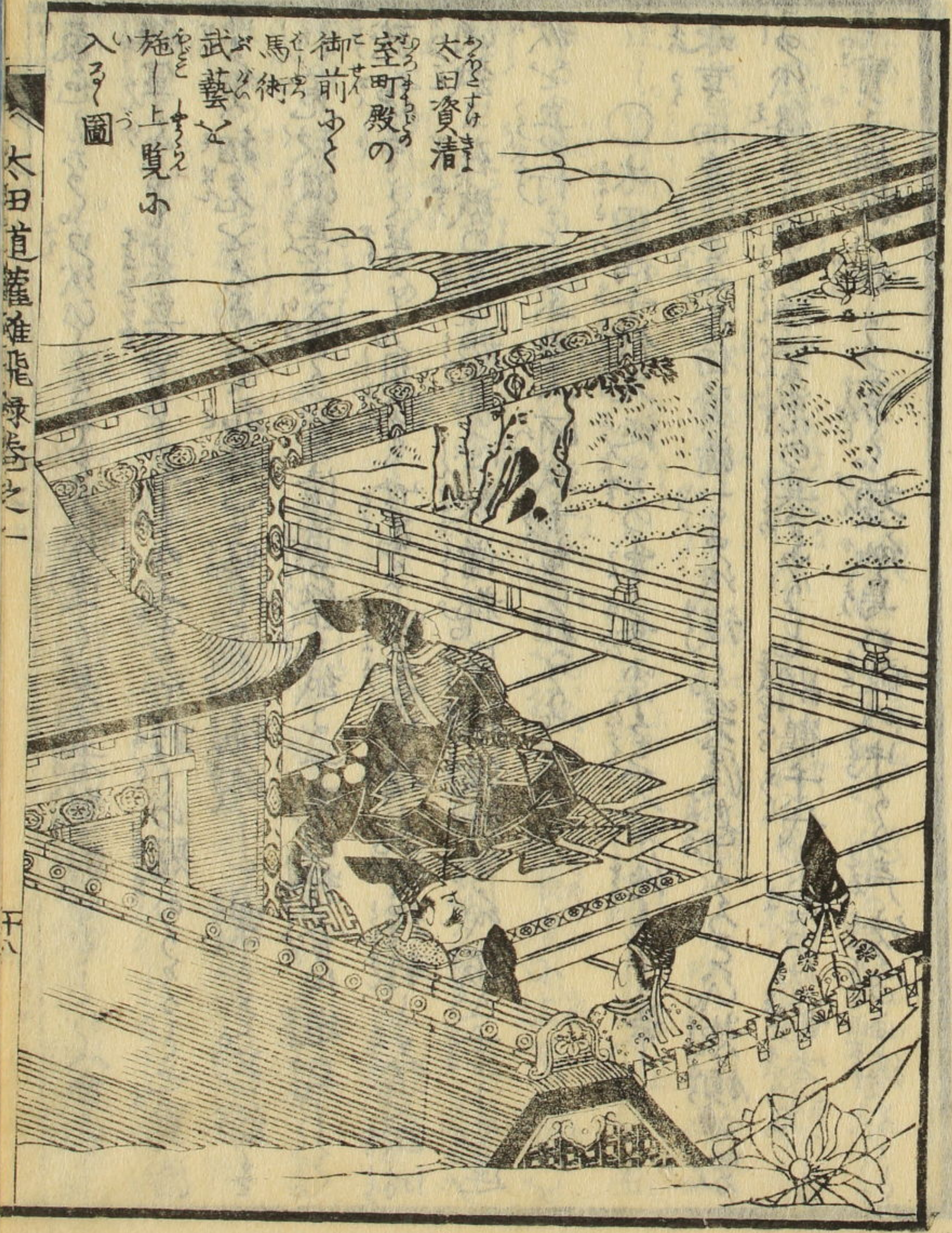
あり。兄ハ幸ね丸と十四郎。分ち幸若丸と。十二歳めく有。と。信。濃。石。川
入道覚道相。俱く。源。金。之。と。あり。た。れ。る。氏。公。感。じ。の。ひ。兄。と。た。馬。助。朝。房
と。号。一。誠。後。信。濃。と。号。の。い。か。し。を。中。務。少。補。朝。宗。と。名。け。上。信。と。号。り。
應永二年二月。岡東の執事。小補。足。大。懸。乃。先。祖。あり。憲。房。の。二。男。
民。於。補。憲。頭。ハ。山。内。乃。御。方。り。也。小。憲。頭。ハ。高。氏。公。身。跡。小。路。直。義。と
不和あり。合戦の。味。方。り。也。高。氏。公。ハ。悪。事。と。く。れ。ども。才。智
殊。よ。と。て。岡。東。に。固。り。人。に。あ。は。れ。し。と。叶。や。と。あ。ひ。の。ひ。と。罪
科。免。り。し。と。あ。ら。し。基。氏。也。乳。母。子。也。相。さ。り。抱。き。育。て。し。
る。岡。東。乃。御。方。り。也。誠。後。安。房。と。号。ひ。源。金。乃。後。見。と。号。す。子。孫。ハ。
山。内。と。号。し。世。傳。ハ。民。於。補。頭。定。管。領。あり。又。高。氏。公。と。号。す。人。數。と
同。し。朝。房。の。子。ハ。憲。入。道。禪。秀。あり。保。親。と。号。す。其。子。孫。ハ。人。自。信。と。号。す。

大徳と稱する絶つ。此れも御秀が子の中少持房と教朝の父
共也。上京して將軍家へ仕へる。故持房又鎌倉の源頼朝の
教朝の義政の弟金吾新下所政の東國下向の弟細川勝元とてうひ
とて執事となりし向成の子政実我死由少持朝の三男。定政を
とあり家督とす。是を倉谷とてし。右の倉谷。山内と稱して兩
管領たり。是れとも山内を頼朝とて大身あり。倉谷の領地山内
が内管領少遠とてさゆりしとて。けし内管領とてし。管領家の老臣
あり事と執りし者なり。山内乃老臣長尾左衛門尉兼景入道昌賢
とてし。是の平氏あり桓武天皇の孫鎮守府將軍良兼の孫村岡五郎
忠通の末裔入部景政が代長尾新定系が後裔なり。入部倉谷の老
臣大田備中守資清とてし。後入道とてし。道真とてし。これ源氏あり

清和天皇五代摂津守頼光の五代の源三位頼政あり。此頼政は武勇の
ありて。執事乃道も巧しありて。一代の源氏普く人の知るところあり。
近衛院二條院西朝の化鳥と射く武名は揚々。主上敬感ゆき其賞
とて。丹波國の庄若狹國栗官川を賜ふ。頼政乃代を左衛門尉
國綱とてし。京都ゆりて禁中奉仕とて時乃上。國綱の頼政の玄孫
ありて。是の源氏乃是頼政の朝家へ忠實とて。一族とてし。宇治にて
戦ふ。源遠げ。強まるとて。亡びぬ。を憐みとて。山内領ありて。丹波國の
庄と國綱よりありし。國綱とてし。攝津守資國とてし。世人丹波國
大田の庄に住して。是れなり。代々大田とてし。氏とてし。鎌倉惟康親王の
將軍とてし。文永年中より。相次ふ。西羽精屋。是れ位とて。資清
も資國より代々の後あり。

太田資清
 室町殿の
 御前ゆく
 馬術
 武藝と
 施し上覧ふ
 入る圖

太田道灌准后録卷之一



太田道灌准后録卷之一

氣色もなぐ。口ひびきもてとれは受く。見ら者警歎せとて入来り。
將軍ふも甚奥どりありの入りて種々の賜ありとて也。資清
生笑祖念とて入て和歌と好む。平白御吟とて樂とて。其御を
新菟玖波集に入ら。資清武成生紙一宰相の精舎に造る。
龍徳寺と号し。自らも世あり。希毫と指え自得軒と名く。武時
河越は任城の守。其の心敬僧都宗。低滋解等。瓜招き下して連
歌と其行と世あり。河越千句とれり。

○大田鶴千代九紙生の半孫小生とてふ絶と奉

永享四年す。大田資清一瓜後。資清甚よろこひ。惣領又別
瓜得る。瓜孫孫鶴島之基ありと。別鶴千代と名づけ。實愛斜と
ど實は梅檀の娘。うら芳く。類如鳥の轍の中より声。法を小徳とて。

三四番の頃よりして。うらの遊びも小児と集めて。兵戯をあり。
ふの城壘の形とつて。其行ひと金く。將の意は預る半とありと。
五六番の時。容貌雄偉あり。才智あり。小童ふか。瓜の言。法又
正し。資清是とて。人學も。瓜事。物乃理。小暗。文の武と用
ゆるの本ありと。九番のとき。鶴千代と孫念の建長寺小上。て。書と
習ら。世文と。瓜。鶴千代とて。其。發明の生。受。ま。瓜。一と。受。て
十と。知。る。ち。り。あ。く。一。扇。し。ち。ど。ま。十一。歳。ま。ぐ。家。ま。ゆ。瓜。螢。雪。の
切。の。り。も。て。老。筆。と。し。ど。も。毎。度。道。と。論。と。鶴。千。代。は。紙。び。と。ふ
五山の碩學。麒麟。と。稱。と。舌。感。心。か。て。十一。番。の。瓜。文。法
ゆ。り。て。父。の。許。へ。か。る。資。清。熟。と。賞。て。勇。士。の。文。を。か。を。と。る。瓜。事。の
國。く。ま。い。と。ま。い。り。家。は。嗚。び。鹿。と。其。瓜。の。瓜。者。瓜。傳。と。て。詩。文。法。と。

是と聞^きくもの^も持^り賢^{けい}の才^{さい}器^きと稱^ない^に各^{おの}方^の中^に於^て感^をと
あひ^あひ^あひ^あぞ。

太田道灌雄飛録卷之一終

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 賢、才、器、稱、各、方、中、於、感]

